

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)古川橋駅前計画新築工事	階数	地上41F、地下1F
建設地	門真市幸福町東	構造	RC造
用途地域	準防火地域	平均居住人員	2,443 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,病院,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2023年9月1日
敷地面積	8,527 m ²	作成者	株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所
建築面積	3,519 m ²	確認日	2023年9月1日
延床面積	70,049 m ²	確認者	株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所 酒井雅男



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92)

②建築物の取組み 67% (46)

③上記+②以外の 67%

④上記+ 67%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<p>良好な都市環境を形成し、賑わいのある街並みを維持するよう努める計画とした。また、高い外皮性能を計画し省エネルギーで快適な室内環境を整えるよう努めた。</p>		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
外皮性能として、日本住宅性能表示5-1断熱性能等級等級5を満たす計画とし省エネルギーで快適な室内環境を整えるよう努めた。また規制対象外もしくは告示対象外の建築材料を採用し、空気質環境を良くするよう努めた。	各住戸に100bitクラスのブロードバンドが利用可能な環境を整備している。また耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長くするように努めた。	敷地内には適切に緑化を施すことで地表面温度上昇を極力抑える計画とした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努めた。またLED照明を採用するなど設備システムの効率化への取り組みをし、ZEH-Orientedを満たす省エネルギーに配慮した建物としている。	断熱材や外構の材料にリサイクル資材を使用し、資源の再利用化に努めた。またODP=0.01未満かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材を使用している。	ライフサイクルCO ₂ の削減に努めた。また適切な量の駐車場・駐車を設置して交通負荷抑制に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府の重点評価(結果)

【建物概要】	建物名称	(仮称)古川橋駅前計画新築工事					
	建設地	門真市幸福町東					
	用途/区分	集合住宅 事務所 病院					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

	エネルギー消費量の報告	対象外
--	-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.3	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価	4.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	4.9	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		